

普及活動情勢報告（平成20年4月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

青色申告会の活動を通じて、経営の目を養おう！



簿記・税務以外にも、多くの知識習得に取り組みました。その成果は！？

平成20年3月24～31日、JA安芸市青色申告会4支部（会員数135戸、うち認定農業者119名）で、H19年度最後の講習を行った。内容は、H19年度決算を基にしたナスの地域標準値と自己経営との比較や、栽培方法・出荷形態を「経営の目」で見返すポイントについて投げ掛けた。

農業振興センターは①農家経営の向上 ②経営状況の把握 ③経営改善への誘導の3つの目的を持って青色申告会を指導しており、H19年度は延べ講習回数60回・延べ参加人数1,012名と、前年度以上に盛況な活動が行えた。H20年度は安芸地域の課題である系統率向上に向けて、経営面からの調査に取り組んでいく。

「こうち型集落営農」希望集落(北川村久府付集落)への説明会の実施



なるほど、なるほど！！「こうち型集落営農」ってこうなんだ！？

平成20年4月6日、毎年、北川村久府付集落全体で行われる花見会の開催に際し、「こうち型集落営農」の説明会(参加者20名)を行った。

農業振興センターでは、「こうち型集落営農」の目的について、第1に所得向上により子や孫に引き継いでいける集落の仕組み作りを、第2に集落を守る共通目標に向けて集落が一体となること等を説明した。

参加者からは、「みんなの協働により集落を良くしていこう」、「説明の様な事を進めなければ」等の声が出され、最後に区長から、「こうち型集落営農」に取り組んでみよう！！という、提案で会議を終了した。

部会みんなで取り組むIPM技術！



来月はこのハウスに
土着天敵を放飼する予定

安芸の「千両ナス部会」は出荷ラインの集約に伴い、今園芸年度が最後の活動となる。そんな中、平成20年4月7日に安芸市川北の部会員の天敵温存ハウスでナスの定植共同作業が行われた。ここで土着天敵の夏越しを行った後、随時、会員のハウスに移して行く計画である。

この部会は、これまでも「農業を続けて行くなら、これに取り組んでいかんと！」と、環境保全型農業技術の導入に向けて精力的に活動してきた。

今後は地域のリーダーとして広く活躍できるよう、農業振興センターとしても支援を行っていく。

よいなすの日
～4月17日～ 安芸集出荷場、営農相談日



「土佐鷹は皮が柔らかくて
えぐみが少ないらう～？」

今園芸年度から始まった「営農相談日」。毎月17日に朝早くから関係機関職員（農振センター普及課・企画、JA営農課・出荷場、安芸市）が出荷場に立ち、出荷に訪れた農家に対して栽培注意事項やお知らせ事項などを呼び掛けている。今回は①ナス新品種「土佐鷹」の推進②土着天敵の利用③腐敗果防止④来作に向けた目標管理をテーマに、「土佐鷹」と従来品種「竜馬」の食べ比べや、土着天敵の共同温存ハウスへの参加などを促した。

農家から聞き取った感想や営農指導に関する意見については、すぐに関係機関で検討し合い、来月の営農相談や毎月発行の「出荷場だより」への掲載、あるいは次園芸年度の研究会活動に活かしていく。

環境保全型農業の推進に向けて



平成20年度環境保全型農業推進事業説明会が、安芸市主催により4月9日～16日にかけて、安芸市・伊尾木・赤野・穴内の4ヶ所で開催された（参加延べ人数28名）。

農業振興センターからは土着天敵の活用拡大に向け、昨年取り組まれた天敵温存ハウスの状況や経過及び今後取り組む場合の注意点等を説明した。

安芸地区は、環境保全型農業への意識が高く、併せて補助事業を積極的に活用していくことで天敵の導入や土着天敵温存ハウスの設置が広がっている。このため今後とも天敵活用技術の向上等に向け関係機関とともに支援していく。

土着天敵の活用に向けて



「いろんな土着天敵がおるがやー」

平成20年4月16日、JA土佐あき吉良川支所集出荷場研究会内の生産者を対象に環境保全型農業推進事業や振興センターの普及計画について説明会を実施した（参加人数30名参加）。特に、振興センターでは、環境保全型農業の事業に併せて、土着天敵を利用した病害虫対策について、1）土着天敵の種類2）土着天敵の繁殖しやすい植物3）土着天敵温存ハウスの活用等について紹介を行った。

JA土佐あき吉良川支所管内では、天敵を使った病害虫管理がピーマン、シシトウの生産者間で実施されているが、新たな土着天敵を利用した病害虫管理方法について関心が高かった。“是非やってみたい”という声も聞かれた。今後は、研究会を通じ土着天敵を活用した環境保全型農業の推進に向け支援していく。